



1951年(S26)当時の本館。終戦直前の7月4日高知大空襲で焼失した野村茂久馬邸跡地で、現在の本館A棟にあたる

第4回近森会グループ学術集会

この1年の各部署の新たな取り組みを情報共有



近森会グループ 学術集会 大会長
近森病院 消化器外科 部長 塚田 暁

開催にあたって

2021年8月14日に第4回近森会グループ学術集会を開催いたしました。昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症が蔓延している中での開催ですので感染予防対策を徹底し、会場運営を行いました。

優れた発表の数々に

各部署より先進的な技術、日常臨床での取り組みや活動などについて18演題が発表されました。どの演題も論理的に構成され、視覚的に見やすいスライド、分かりやすいプレゼンテーションでした。最優秀演題賞として薬剤部の丸岡由貴さんの『心不全患者における薬薬連携の有用性』が受賞されました。保険薬局と相互に情報提供し共有することにより患者さん本人から得られた情報以上のことを知ることができ、患者さん一人ひとりに合わせた服薬指導や他職

種との情報共有に有用であったという発表でした。このような新たな取り組みが、高齢者の割合の高い高知県において患者さん治療の助けになると考えます。また座長賞として3演題が選出されましたが、その他の演題でも活発な質疑応答が行われどの演題も大変優れた発表であったと思います。

チーム医療の進化を目指し

チーム医療において他部署がどのような取り組みを行っているかを知

る良い機会になったのではないかと思います。今回の発表から得たアイデアが今後の自部署での取り組みへの一助になることを願います。今回の近森会グループ学会もすべての職員にとって有意義な相互理解へのよい場であり、当院のチーム医療がさらに進化することを期待しています。最後に、コロナ禍での学術集会の開催にあたって準備、運営、感染対策に携わっていただいたスタッフに感謝申し上げます。

つかだ あきら



第4回近森会グループ学術集会 受賞者

受賞	演目	所属	氏名
最優秀演題賞	心不全患者における薬薬連携の有用性	近森病院 薬剤師	丸岡 由貴
第1部座長賞	舌骨上筋群の筋力強化訓練の比較研究	リハ病院 言語聴覚士	平川 加菜
第2部座長賞	近森病院における手動経管栄養投与時間の調査報告 —リハビリテーション部の業務改善と収益増にむけて—	近森病院 言語聴覚士	井上 浩明
第3部座長賞	近補助循環治療を体験した患者の妄想的記憶へのケア —ICU ダイアリーの活用—	近森病院 ICU 病棟 看護師	池島 真由美



●参加者 101 名 (スタッフ、座長、発表者含む)

●アンケート抜粋
初めての学会参加で普段病棟では考えることのできない考えを聞き感じることができた。他部署の活動に尊敬を感じた。他部署の活動が知れた。また直接反映されそうな内容もあった。



9月の歳時記

金木犀

近森オルソ

リハビリテーション病院

外来クラーク

濱渦 美和



良い香りがする事で知られる花、金木犀。そばを通るとほんのり良い匂いがするところが私は好きです。香りが遠くまで届くのは小さな花をたくさん咲かせるからです。一つの花の命は短く一週間で枯れてしまいます。原産地は中国で、中国の金木犀は花が終わると赤い実をつけるそうです。今年も期間限定の香りを楽しみにしています。

はまうず みわ



● 近森看護学校通信 57 ●

100号発行を振り返って

近森病院附属看護学校 学校長 山崎 正博



2018年9月の近森病院附属看護学校の校長への就任を機に、学期中に在学生向けに学校長便りを毎週発行してきました。2020年12月8日には100号になりました。読解力をつけて、自分で考える力、コメントする力、発信する力を身につけることを目的として多くの話題を取り上げました。

学内や日常生活でのアドバイス

▼毎週発行してきた「学校長便り」



や最新の医療の話題はもちろん、新聞記事を含め身近雑記や推薦図書を取り上げているのは、複雑化・高度化する医療の世界で生きていくための非認知能力や社会的スキルを少しでも高めてもらうためです。

やまさき まさひろ

★ 高知ハビリテリングセンター ★

灯り アート in ハビリ

ハビリテリングセンターで募集した、「気持ち」や「こころ」が表現された提灯を期間中展示しています。

観覧ご希望の方は担当の島崎（電話番号 088-842-1921）までご連絡をお待ちしています。

展示期間：9月～約1カ月予定





コロナに負けるな!

知識と認識の共有をめざして



近森病院 感染症内科 部長
感染対策委員会 委員長
石田 正之 (座長)



JA 高知病院
感染管理 専任看護師
松下 英里 先生

JA 高知病院
内科
森住 俊 先生

近森病院
総合内科
岸本 浩一郎

今回 JA 高知病院からの提案を頂き、JA 高知病院から当院に転院となった症例を中心に、新型コロナウイルス



イルス感染症の症例検討会を共同開催いたしました。

この1年半以上の経過で本感染症に対して、治療薬やワクチンの普及などが進むものの、いまだ収束の目処はたらず、高知県でも新たな流行の波(8月2日現在)が起こりつつある状況です。本疾患の診療において、軽症・中等症を主として診療する医療機関と重症例を診る医療機関との連携が非常に重要であり、この

ような現状において、さらなる連携の強化が必要であると考えています。

今回 Web 開催を行った事で、院内から多数の参加を頂いたばかりでなく、JA 高知病院以外の医療機関からの院外参加もいただき、かつ活発な討議も行う事ができました。今回の検討会を通して、知識と認識の共有を図れた事は我々にとって非常に大きな財産になったと考えております。

感染対策医療従事者の派遣事業の活動報告その2

くぼかわ病院訪問について

(2021年8月14日)

先月号の「ひろっぱ」でお知らせをしました、感染対策医療従事者の派遣事業について、今号ではその続報として実際の活動内容を報告いたします。

今回は、くぼかわ病院に訪問いたしました。くぼかわ病院では、同院で診療に当たった新型コロナウイルス感染症の症例の振り返り、受け入れ病棟の確認と感染対策上の懸念点



▲左、くぼかわ病院副院長杉本先生

▼空気感染隔離ユニット



に関しての意見交換、个人防护の着脱に関する確認と指導、新型コロナウイルス感染症の最新の治療に関する知識の共有、新型コロナウイルス感染症以外の、感染症の困難症例に関する相談を行いました。

これからも継続的に、地道に活動を続けて参ります。新型コロナウイルス感染対策、感染症診療でお困りの事や、不安な事がございましたら、お気軽にご相談ください。

いしだ まさゆき

田村雅一先生の新シリーズ

『一期一会』

2021.08.15 発行



全く同じ状況での出会いのつもりでも、時期が異なっている限り、同一の出会いとは二度となく、従って一回一回の出会いはいつも新しい。こう意識するようになって、出会いをこれまで以上に深く体験できるようになった。これが、新シリーズを『一期一会』と名づけた田村先生の近頃の実感だそうです。

読者の皆様には、ぜひこの境地で、随筆集『一期一会』に出逢っていただけたらと願います。

ピカイチの進学校・神戸の灘高校で強い劣等感を抱いたと言われる田村先生。せめて一つだけでも習熟できればと選んだ精神科で、自分の「融通の利かなさ」を補って余りあるスタッフに恵まれ、おかげで今日があると、実に感慨深げです。

チーム医療の考え方を近森会に最初に持ち込んだとされる田村先生ならではの「矜持」(自信と誇り)が窺えるといったところでしょうか。



コロナに負けるな!

新人看護師ストレスマネジメント研修



看護部 看護師長
キャリア開発課 課長 久保 博美

今年度の新人看護師はコロナ禍のため、臨地実習の機会が少なかった背景があります。ある全国調査では、予定実習を学内に変更した割合が74.1%に及ぶと報告されました。入職前研修も実施しましたが、患者さん・ご家族・医療者とかかわる体験が少なかった



▲看護師新人研修：7月5、19、29日の3回に分け今年度入職看護師48人が受講しました

ためか、やや自信がない面や不安な様子が見受けられていました。

そんなおり、近森病院附属看護学校の平瀬節子副学校長による「今の自分に気づくことを通してとらえ方を変える」“キャリアアランプ”を使った当研修の実施ができました。

笑顔で語りあい、受講後には「短所も個性のひとつだと認めることができた」「心に負担を感じていたが捉

え方が変わって気持ちになった」といった感想が寄せられました。前に進む力をもち、自

▶講師の近森病院附属看護学校副学校長 平瀬節子先生



◀キャリアアランプ：表面には数字の代わりに、心のエピソードを引き出す「言葉」が

分の歩みを続けてほしいと関係者一同願っています。

くぼ ひろみ

看護部以外に入職2年目コメディカルの研修も行いました



6月29日に、昨年コロナ禍で新人研修を見送った27人がキャリアアランプによる研修を受講

リレー エッセイ



コロナに負けるな!

よさこいと私

株式会社 近森産業 管理部施設課 野村 祐貴 氏



名古屋から大学進学のために高知に来て6年目になりました。卒業後は地元に戻るつもりだった私が高知に残るきっかけとなったのはよさこいでした。1回くらいしっかり踊りたいと思った3年生の夏、偶然大学内で見つけた募集のポスター、聞いたことのある名前だったとあるチームに参加しました。

周りは上手い人ばかりの中、初心者だった私は鳴子を上手く鳴らせませんでした。週5回ほどあった練習により、徐々に踊れるようになりました。迎えたよさこい祭り本祭では、賞も取ることができ、発表された瞬間は今でも忘れられず、この時

にはずっと高知でよさこいを踊っていたいという思いが強まっていました。

それ以来毎年参加し続けていた祭りが、昨年中止となりあの賑やかな夏が来ないことに寂しさでいっぱいでした。正直何のために高知に残ったのだろうと感じていた時期もありました。



今年もよさこい祭りは中止、代わりに開催を予定されていた特別演舞も同様に中止になってしまいました。練習も本格的になり、ちょうど気合が入ったタイミングでの報告だったため本当に悲しく、また今年も自分にとっての夏が迎えられないことを辛く感じます。

しかし、まだこれからも練習はあるため、今後どこかで来る機会に向けて、少しでもいいものを見せられるよう踊り続けていきます。来年こそ思いっきり踊ってみんなで楽しめる夏がきますように!

のむら ゆうき

乞！熱烈応援

経験を力に



特定行為研修指導責任者
看護師長
山脇 久男

昨年度より、看護師特定行為研修の指導者として研修指導を行っています。昨年度は慣れない業務のなか、教育・管理業務をなんとか務めてきました。本年度は、昨年度の経験を踏まえて特定行為研修の充実だけでなく、研修修了生の活動支援・フォローアップにも努めてまいりたいと思います。

やまわき ひさお

日々成長できるように



近森リハビリテーション病院
理学療法士 主任
江口 智博

約2年間、主任代行として業務に当たってきました。主任心得と呼び名が変わる事で責任の重さは増し、身の引き締まる思いです。

職場の仲間を大切にし、また後輩の道標となれるよう、長期的な視点を持って行動する事を意識し、自分も組織も成長できるように、精進したいと思います。

えぐち ともひろ

ハッスル研修医

失敗と学び



初期研修医 今西 海帆

高知生まれ高知育ちの高知っ子です。消化器内科から始まった近森病院での研修も、早くも4か月が経過しました。

これまで研修させていただいたどの科も魅力的で、とても充実した研修生活を送ることができています。時間が経つのは本当にあつという間で、この4か月で何ができるようになったんだろう、この先どうしたら成長できるんだろうと、時間の使い方にも悩みながら毎日過ごしています。4月は右も左も分からず自分の未熟さを痛感する毎日でしたが、そのたびに2年目の先輩方はもちろん、指導医や上級医の先生方、スタッフの皆様を支えていただきました。本当に感謝しています。

日々失敗と学ぶことばかりで、自分の成長を感じられる場面もありませんが、医師として、人として少しずつ成長していけるように精進して参ります。高知の活気ある楽しい日常が一日でも早く戻るように祈っています。

いまにし みほ

近森会 保育室 そろと

暑い日には水遊び。楽しく元気に、健やかに！



お弁当拝見 95

2年目に突入



近森病院 総合心療センター
4階 看護師 藤近 利早



我が家の娘は、幼い頃から事ある毎に「お母さん、私達の為に昼も夜も働いてくれてありがとう」「お父さん、私達の為に栄養バランスの取れた美味しい食事を作ってくれてありがとう」と言うくらい、私は料理

が苦手です。

そんな私が、娘の中学入学を機に、毎日のお弁当作りに励み、それは2年目に突入しています。その陰には、夜な夜な娘の為に揚げ物などの惣菜を下拵えして、冷凍庫いっぱいにな



トックしてくれている主人のサポートがあるからです。ちなみに今日のお弁当は主人作です。

ふじちか りさ

PFO 閉鎖術を広めていきたい

近森病院 循環器内科 科長 細田 勇人



CVIT とは

CVIT(日本心血管インターベンション治療学会)は約1万人の会員を持つ心血管カテーテル治療を統括する学会です。突然死の代表的な原因である心筋梗塞治療の中心である心臓カテーテル治療をはじめ、心血管病に対する低侵襲治療の指針作成において中心的役割を担っています。

Web 講演会で講演

先日、私は CVIT が主宰する CVIT-TV という web 講演会で全国の医療関係者に対して「脳梗塞再発予防のための PFO 閉鎖術—循環器内科医としての関わり—」というテーマで講演させていただきました。

PFO (卵円孔開存) とは胎児期に

心臓の中に空いている卵円孔という穴が出生後も開存したままの状態であることです。この PFO は時に脳梗塞の原因となります。これまでは PFO が原因である脳梗塞に対する有効な治療法がありませんでした。しかし、近年 PFO 閉鎖術というカテーテルで PFO を閉鎖する治療の有効性が示されました。

PFO 閉鎖術は、小児科をもつ一部の施設でのみ施行可能でした。2021年に治療施設が拡大し、これまで ASD(心房中隔欠損症)の治療を行っていなかった施設でも治療可能となりました。

2021年4月に当院は新規施設として、全国で最初に PFO 閉鎖術を施行

しました。今回、7例の治療経験をもとに、当院の患者選定・治療における取り組みなどについて話す機会をいただきました。

PFO (卵円孔開存) 由来の脳梗塞再発を防止

PFO 閉鎖術は低侵襲・低リスクであります。これまで治療を受けられなかった患者さんが、きちんと治療を受けられる機会をえられるよう、PFO 閉鎖術を広めていけたらと考えております。

ほそだ はやと

PFO 閉鎖術についての詳細は、「ひろっぱ」2021年6月号へ



日本病院学会 Web 発表報告

2021年6月10～11日

マンパワーに依存せず十分な連携や支援が行える仕組みを

診療支援部 医事課

近森病院 地域医療連携センター

主任 北川 真也



地域連携と入退院支援

第71回日本病院学会「シンポジウム3」にて、当院の地域連携と入退院支援の取り組みについて発表の

機会をいただきました。今年は沖縄県で開催された本学会でしたが、コロナウイルス流行拡大により現地訪問は叶わずリモートでの参加発表となりました。

他院との比較から

さらなるブラッシュアップを

経営戦略における地域連携と入退院支援についてが主たるテーマであり、少子高齢化と医療機能分化が急進する高知県で当院が救命救急センター・地域医療支援病院として患者さんの受診から入退院に至るまでにどういった連携や支援の工夫を行っているかをお話するとともに、開催県のシンポジストである友愛医療センター、中頭病院のご経験豊富な先生方の発表を拝聴し、それぞれの内

容について意見交換をさせていただきました。短く限られた時間でしたが、特に紹介予約調整の手法や病院救急車による搬送の運用について掘り下げた質問も複数いただき、貴重な経験となりました。

効率化 with 高齢化

未だ人口増加の続く沖縄と高知とでは地域性も異なりますが、働き方改革に向けて随所で「効率化」を意識した改善に注力している様子がうかがえました。高齢患者さんが増え続けるであろう当院で、マンパワーに依存せず十分な連携や支援が行える仕組みをいかに整えていくか、今後の課題を切に感じました。

きたがわ しんや



浅羽文庫設立

浅羽先生から書籍を寄贈いただきました

浅羽先生より図書を寄贈いただきました。先生は「昔のだから・・・」とおっしゃいますが今でも十分勉強になる薬膳・漢方、時間栄養学の他、食と栄養に関する幅広く面白そうな本ばかりです。

臨床栄養部 副部長 内山 里美

担当スタッフが「浅羽文庫」と題し、手作りシールを貼って貸し出しています。貴重な本をありがとうございました！大切にします。

▼本上部に黄色の手作りシール



食医に憧れて。夢を次へ

第1回書籍寄贈について

近森病院 総合診療科・総合内科
部長 浅羽 宏一

文庫設立の経緯

私が読まなくなった栄養学に関する書物を引き取って頂き、浅羽文庫として保管して下さったこと、またこの様な形でひろっぱに一文を書か

せて頂きましたことに関して、臨床栄養部の内山副部長をはじめとした多くの臨床栄養部の先生方に深謝致します。

栄養学的重要性

私の専門分野は内分泌・代謝・糖尿病学で、日々多くの糖尿病患者さんを診療しています。糖尿病の治療として食事療法は重要ですので、糖尿病専門医を目指していた若い時から栄養

学の勉強をしていました。

あまり知られていませんが、先進国の医学校で栄養学が教えられていないのは日本だけです。栄養が治療にはとても大切なので、この事はとても残念なことです。そのため、医師は大学卒業後に栄養学を一から勉強しなければなりません。糖尿病専門医になってからは、栄養士さん向けの勉強会の講師をするようになりましたので、栄養学の本は増えました。

あさば こういち
(次号に続く)



近森会健康保険組合

2019年度後期高齢者支援金の減算対象組合に選ばれました(=評価良好)



健保組合の支援金拠出の仕組み

健保組合や共済組合などが後期高齢者(75歳以上の人を指します)の加入する健康保険、「後期高齢者広域連合」に対し、毎年多額の支援金を拠出しています。この支援金額は、各保険者の保健事業の実施状況によって、評価が良い場合は本来の額より減算し、評価が悪い場合は加算される仕組みです。

評価良好=減算

今回、総合評価で「良好」と判定されたことにより、国に治める支援金が少なく抑えられ、インセンティブが得られたということです。(逆に加算されると皆さんから預かった



保険料の中から多額を外部に取られるペナルティということになります。)

特に点数が良くなった背景として

まずは実施委託契約をした近森会健康管理センターの「特定保健指導」の実施率が60%を超えたことが一因です。各種がん検診の充実や、今までやってなかった歯科健診、社員食堂健康メニュー提供も評価を得ました。

(近森会健康保険組合
事務局長 田村裕彦)

ありがとうございました

公益財団法人 看護協会様より保冷剤ポケット付きクールベストを頂きました。

防護具着用時の暑さ対策に!



ユニフォーム変更

▼薬剤部(男女で横のラインなどデザインが違います)

▼臨床工学部
CSチーム



写真で見る近森の歴史解説



▲ 1986年1月号「ひろっぱ」より
当時 38歳

「救急告示病院 1980～90年代」

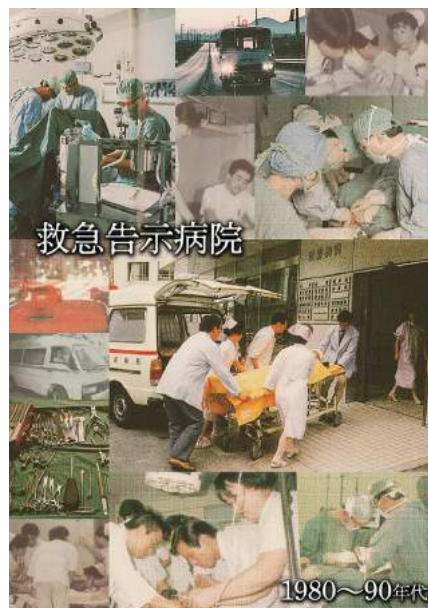
1980年～90年代の近森の救急告示病院の時代は、ちょうど私が外科科長として近森病院に赴任してから、院長業が忙しく外科から透析科に変わった時代と一致する。当初は付き添い看護の時代で、循環器内科や消化器内科はカテーテルや内視鏡による治療が黎明期で、診断と薬物療法が中心となっており、外科医による外科治療が全盛の時代であった。

救命救急センター 10周年記念セレモニーで好評だったポスターを、「救急のチカモリ」の変遷を一番近くで見えてきた近森理事長の解説で思い出とともに振り返ります。12月の近森病院 75周年に向かって、1980～90・2000・2010～年代の3回シリーズでお届けします。ポスターは現在 ER 待合に掲示中です。

社会医療法人近森会
理事長 近森 正幸

当時は、麻酔や手術方法は手探りで、診療材料や薬剤は現在とはまったく違っていいものがなく、入院患者の死亡率は13%という惨憺たる状況であった。それでも、「この患者を助けるのだ!!」という熱い情熱を持って、全力をあげて一人一人の患者さんに治療を行っていた時代で、診療に充実感があり「医師として幸せな時代」であった。

ちかもり まさゆき



救急告示病院

1980～90年代

私の趣味

心つかまれ 10年目

私が14歳の時に心を掴まれ、今も尚、虜になっているのは「THE ALFEE」というバンドです。

今年で結成48年、一度も休止することなく、毎年欠かさず全国各地でライブツアーを行っています。ライブ本数は通算2700本超で国内バンドの最多記録更新中です。お三方とも67歳という年齢を感じさせない程、圧倒的な演奏と歌声、そしてコントを楽しむことが出来ます。今はコロナの影響で1年以上行って

近森病院 6階 A病棟 看護師 松本 真理菜

はいませんが、去年までは旅行も兼ねて様々なところに行きライブを楽しんでいました。

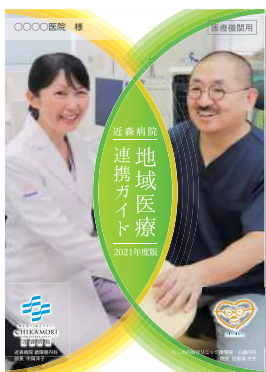
このコロナ禍でライブがなくなった今、テレビ出演は多くはないのでなかなか見ることは少ないのですが、その中で私が楽しみにしているのはラジオです。メンバーの一人である坂崎幸之助さんがパーソナリティを務める番組で毎週金曜日に2時間、生放送されています。爬虫類、カメラ、ギター、骨董品など趣味の

話から、マニアックな音楽の話、生歌リクエストなどがあり飽きることなく2時間が過ぎていきます。様々な年代・ジャンルの音楽を知り、触れることができる楽しい時間となっています。

今は声だけでしか会うことは出来ませんが、いつかまたコロナが落ち着きライブに行ける日を楽しみに待っています。 まつもと まりな



地域医療連携ガイド 2021年度版



今年の表紙ゲストは、にしの内科クリニック循環器・心臓内科 院長 西野 潔 先生です！

○各診療科の体制や専門性を知っていただくため、毎年本誌を県内の関係機関へ配布しています。

2021年7月の診療数 電子カルテ管理課

近森会グループ	
外来患者数	17336人
新入院患者数	1,069人
退院患者数	1,061人
近森病院(急性期)	
平均在院日数	11.78日
地域医療支援病院紹介率	94.70%
地域医療支援病院逆紹介率	322.86%
救急車搬入件数	642件
うち入院件数	336件
手術件数	505件
うち手術室実施	333件
うち全身麻酔件数	230件

編集室通信

姪っ子を預かるとき、手洗い・トイレ・水分補給など、嫌がってなかなかしてくれないので、私と競うシステムを導入してから、負けず嫌いな彼女はしっかりやってくれる。私は必ず2番目になるよう調整しつつ、張り合う演技を全うしている。ただ、じゃんけんぐらいはフェアな勝負を！と思うが、一度たりとも私の勝利を認めてくれない。 まっちゃん

自分の特性に向き合って～ポーター一歴9年目を迎えて～

近森病院 看護部 ポーター 黒田 圭亮

自己紹介

私は、発達障害自閉症スペクトラムという特性を持っています。コミュニケーションの障害で、抽象的な表現や言葉だけのやりとりは苦手です。でも、視覚的な情報は理解しやすいので、必ずメモを取ることで正確な仕事を心掛けています。てんかんもあります。服薬や一定の生活リズムを保つことで体調管理ができています。

発達障害に向き合って

発達障害のことは、小学5年生の時に両親が教えてくれました。実際に自分の特性を納得したのは20歳の時、デイケアや就労支援センターで発達障害について勉強してからです。それからは、自分の特性を知



▲全国大会でキャプテンとして出場

の時、デイケアや就労支援センターで発達障害について勉強してからです。それからは、自分の特性を知

り、周囲の人にも理解してもらって、「働きたい!」と強く思うようになりました。障害者雇用で近森病院に就職することができ、ポーターとして9年目になりました。一つひとつの仕事を大事に頑張っています。

就労定着のポイント

私が長く勤務することができているのは、働く環境がとても整っているからだと思います。

- ・勤務時間、仕事の内容、上司が変わらない
- ・ポーター内で、長所を活かし苦手な面を共有してくれる。いろんな話ができる
- ・当事者会や障害者バスケットチームに誘ってもらい参加している
- ・医療や福祉に繋がり、健康に働



▲黒田さんと伊藤さんの2ショット



くことができる

一緒に頑張る同僚が増えれば

働く環境が整い、仕事を一生懸命頑張ることができ、長く勤めることができる、そういう同僚が増えていけばいいと思います。これからどうぞよろしくお願ひします。

くろだ けいすけ

・先輩から黒田さんへメッセージ・

黒田さんはポーターにとってかけがえのないメンバーです。1つのチームとして動く中で積極的に周りの人を手伝い、たいへん助かっています。建物間を移動するので、悪天候や炎天下のなか大変ですが、今後ともにポーター業務を頑張っていきたいと思います。

ポーターリーダー 伊藤和也

自分らしく働ける職場との出会い

高知ハビリテーリングセンター センター長 西岡 由江

上の写真では彼が障害を持つことに気づかないのではないのでしょうか。発達障害は目に見えない障害といわれ就労場面での合理的配慮などが難しいとされています。黒田さんがなぜこの近森会で継続して就労ができてなのか。その理由は、黒田さんの得意なことを活かした職場配置がなされていること、さらに自身が苦手なことを認め、それを助けてもらっていることだと思います。

黒田さんが入職した9年前、外来

センターと北館が完成し、患者さんの検体運搬やポーター業務が煩雑になりました。そのポーター業務の内、配達の都度その業務が完了する、対象を検体などのモノに限定したことで黒田さんの障害特性に合った仕事となりました。就労が定着できたのは、マッチングが上手くいっただけでなく、入職後も毎日の業務をメ

▼9年間欠かさずとったメモ帳 モに残し、自宅に帰って振り返り、頭の中で翌日のシミュレーションを行う黒田さんの日々の努力の結果です。



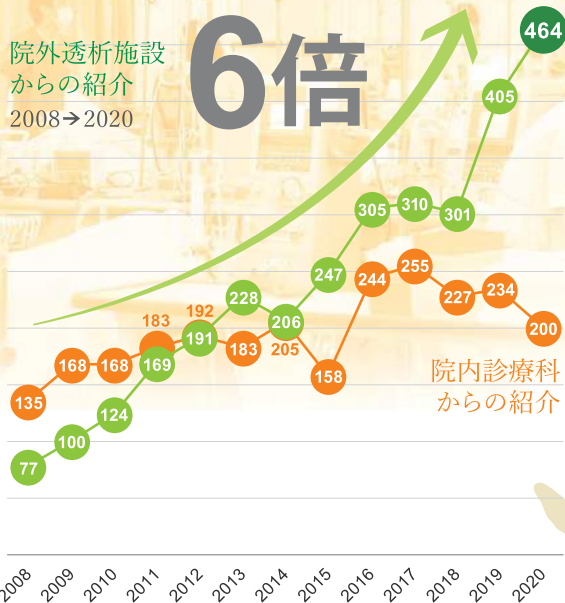
今では仕事が定着し、黒田さんがポーター業務をこなしてくれることで、病院全体の業務の効率化が図れ、縁の下の力持ちとしてなくてはならない存在となっているのではないかと思います。

にしおか よしえ

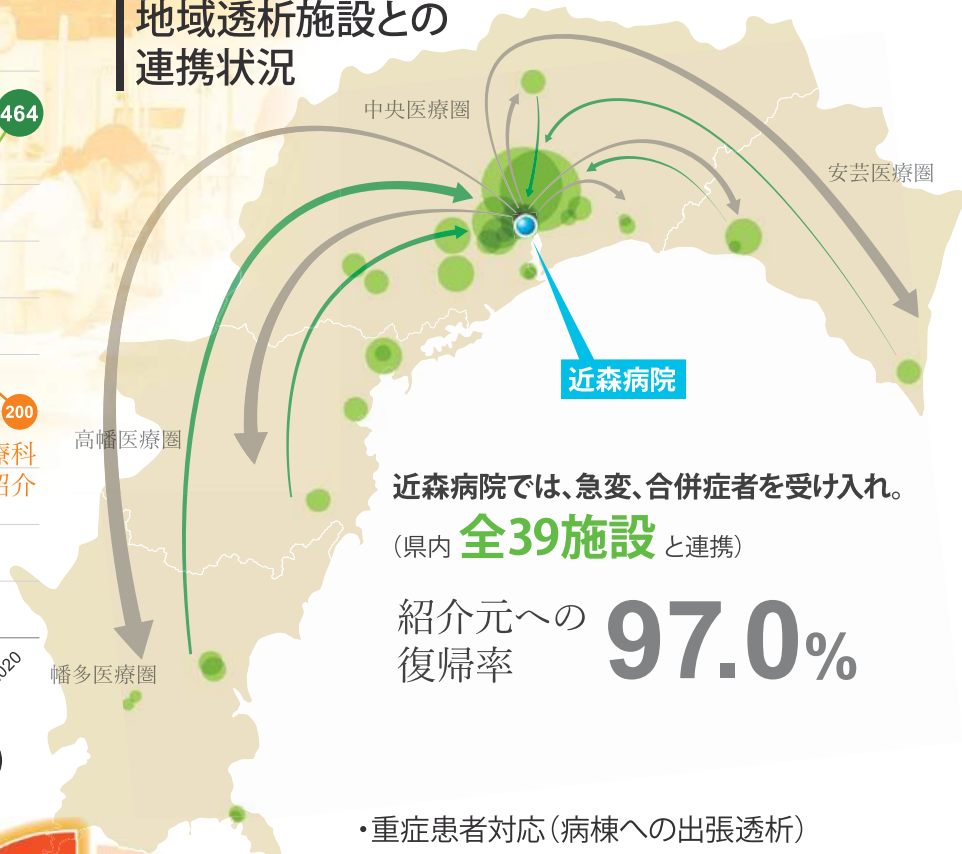
腎・透析センターの 診療実績

出典：近森病院 腎・透析センター 診療実績データ

透析患者 紹介受入件数の推移 (2008~2020年)

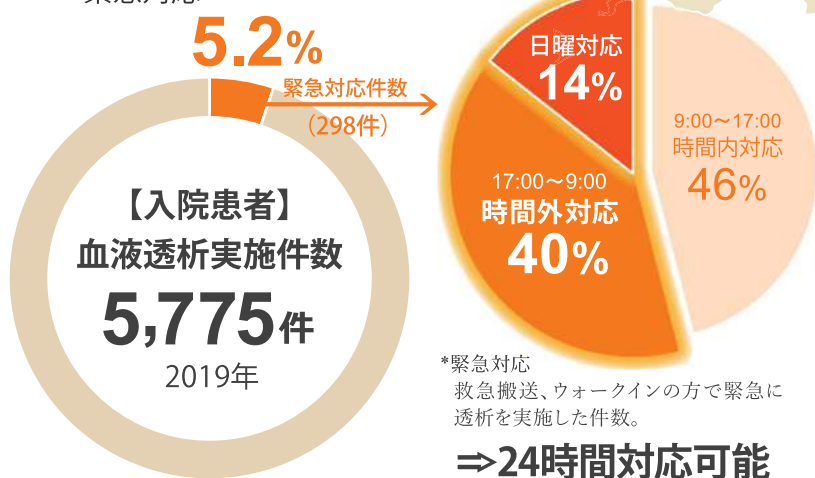


地域透析施設との 連携状況

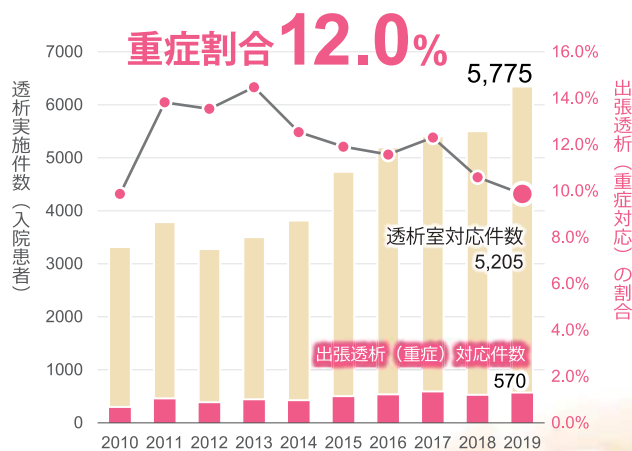


血液透析実施件数(入院患者)

・緊急対応

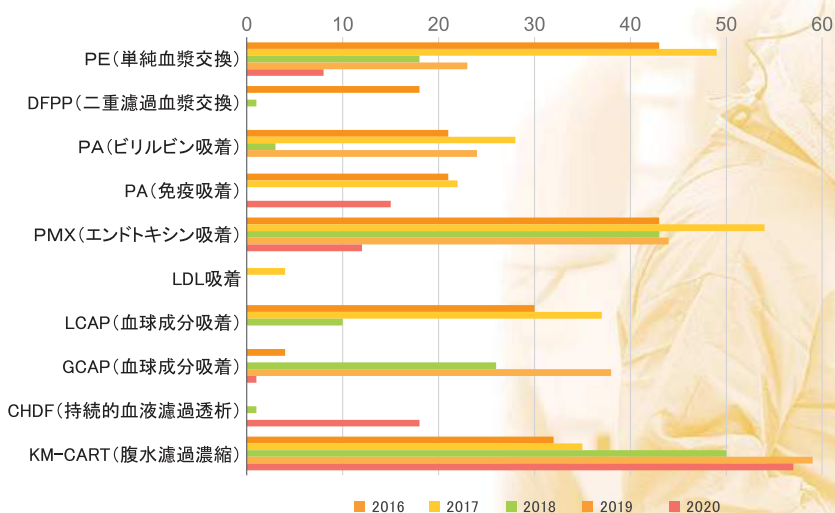


・重症患者対応(病棟への出張透析)



出張透析は、人工呼吸器装着の方や、手術後の方が対象であり、
ここでは重症患者と定義した。

透析以外の血液浄化件数



維持透析患者の心臓手術件数

